

令和4年度第2回大府市認知症地域支援ネットワーク会議
兼 認知症初期集中支援チーム検討委員会 会議録

日 時 令和5年2月2日（木）午後1時30分から午後3時まで
 場 所 全員協議会室
 出席者 竹中徳哉、高見雅代、新美恵介、芳賀鉄男、川瀬正枝、齊藤千晶、中隆之、田中靖久、久野泰弘、服部啓子、尾之内直美、横山眞弓、西部孝博、森下明雄、松山靖（敬称略）

次 第 1 あいさつ
 2 議題
 (1) 令和4年度・令和5年度大府市認知症施策について
 (2) 大府市の認知症高齢者等の行方不明について
 3 認知症初期集中支援チーム検討委員会
 令和4年度大府市認知症初期集中支援チーム報告書

	内 容（発言要旨）
1 あいさつ 市 長	第1回会議で認知症サポーター2万人チャレンジを達成したと報告したが、昨年11月に厚生労働省主催第11回健康寿命をのばそうアワード！という表彰制度で、厚生労働大臣優秀賞を受賞した。市全体で多くの方にご協力いただき、御礼を申し上げる。また、認知症高齢者等行方不明を1月現在13件把握している。メルマガなど体制はあるが、ちょっとした声かけが大事なので、認知症サポーター養成には今後も力を入れていきたい。第1期認知症施策推進計画の最終年度となる令和5年度も各事業を積極的に推進していくので、本日は忌憚のない意見をいただきたい。
2 議題	事務局から資料に沿って説明。 (1) 令和4年度・令和5年度大府市認知症施策について ①普及啓発 ・世界アルツハイマーデー啓発イベントの実施（健康都市スポーツ推進課） ②予防 ・健康長寿塾（健康増進課） ③医療・ケア・介護サービス ・プラチナ長寿健診、あいちオレンジタウン構想への参画（健康増進課） ④認知症の人及びその家族への支援 ・認知症カフェの設置の促進・運営支援、おおぶオレンジサポーター登録制度、チームオレンジおおぶ（高齢障がい支援課） ・成年後見制度利用促進事業（福祉総合相談室）
中 会 長 事 務 局	各委員より意見 アルツハイマーデー啓発で市民が立ち寄る機会が増えたという評価があるが、今後他に考えていることはあるか。 市民が具体的なアクションにつながるような活動を検討する。

中 委 事 務 局 委 員 事 務 局	<p>者が参考にできるよう周知してほしい。</p> <p>記録の見せ方として、できる範囲で地図上に示すなど工夫をしてほしい。</p> <p>なお、今回行方不明になる直前に近所の方から「裸足で歩いているおじいさんがいた」という情報があった。しかし、近所の方はおかしいという認識はなかった。認知症サポーターが2万人を超えたということだが、まだまだ認知症を理解する力が、地域の中では不足しているという思いがある。もっと認知症サポーター養成をやっていかないといけない。</p> <p>まだ周知が足りていないところもある。普段の付き合いの中で、その人の好きなことなどが地域の中で情報共有できていると検索の一つの切り口なると感じた。</p> <p>検索のソフト面ばかり出ているが、ハード面、例えば防犯カメラを活用できないか。</p> <p>防犯カメラの設置については地区ごとに順次進めているので、意見を参考にして施策を進めていきたい。</p>
3 認知症初期集中支援チーム検討委員会	<p>事務局から資料に沿って説明（大府市高齢者相談支援センター）</p> <p>令和4年度大府市認知症初期集中支援チーム報告書</p> <p>支援の流れ、令和4年度の取組、検討件数、終結時の状況、課題について説明。</p>
竹中副会長 中 委 事 務 局 委 員 事 務 局	<p>家に入られるのが嫌という方が結構いる現状があるが、やはり医療につなげていくということが非常に大事なので、これからもサポートしていきたい。</p> <p>今回から始めたケース選定会議が効果的だったのか。</p> <p>ケース選定するにあたっては、専門的などを重視している。医師に何を聞くかや、医療にどうつなげていくかなどを、話し合っていて決めている。</p> <p>ケース選定フローチャートは、対象者の方が挙がってきた時点かケース選定会議をやりながらやるのか。</p> <p>挙がってきた最初に行う。</p>
中 委 事 務 局 委 員 中 委 事 務 局 委 員 中 委 事 務 局 委 員	<p>全体を通して質問等があれば。</p> <p>老人ホームで自由に出でいける施設のため、認知症の方が出ていってしまって、1件は隣市のコンビニからの連絡で無事発見できた。それ以降にも、認知症サポーターと思われる方から連絡があつて発見されたことがあった。認知症サポーター養成の効果を実感しているので、ぜひ学んだことを高める機会を作ってほしい。行方不明についてデイサービスではどうか。</p> <p>家の中にいないということはないが、独居の場合は日頃からキーパーソンなる家族等との関わりを大事にして、情報をいただいたり発信したりしている。</p> <p>ヘルパーのところではどうか。</p> <p>ヘルパーが伺ったときにいないことはある。やはり日頃の本人の話から行動範囲など情報を入れていたところを探索しすぐ見つかった。服装だとか日頃着ているものなどチェックしている。</p> <p>グループホームではどうか。</p>

委 員	以前に知らないうちに出ていってしまっで職員が追いかけるというのはあった。今は職員が付き添って、長い距離を気が済むまで歩くというような対応もしている。過去に近くの工場長からの電話で見つかったということがあった。私も地域の方が認知症の方に関して対応がうまくなってきていると感じている。
委 員	民生委員も中にもまだ認知症サポーター養成講座を受講していない人がいるが、民生委員が第1発見者になることもあるので、知識をつけて戸惑わないようにしていきたい。また、行先などで普段から近所の方々が見守っていることを感じた。洗濯物が3日も干したままになっていることに気づいた近所の方が市役所に連絡して、入院していたとわかったということもあった。やはり地域の目や見守りというのは、私たちに課せられた任務であり、ありがたいことだとも思う。
中 会 長	認知症サポーター養成講座で認知症の勉強はしているが、そういう変化のところに 関しての気づきまで展開できると、地域を見守るという意味で重要である。警察の方ではどうか。
委 員	東海警察署管内全体で、行方不明が毎年130名程いる。そのうちの2~3割ぐらいが認知症の方で、地域の人からの通報で見つかることが非常に多い。体感的に認知症の方がだんだん多くなっている。認知症として取り扱う事案以外にも行方不明の届出は出てないが、徘徊している高齢の方を保護した事案も含めると、さらにこの何倍にもなる。届出なく保護し、家族に聞いたら「そういえばいない」ということがある。警察としてはお願いしたいのは、行方不明が起きたらその場からすぐ110番してもらいたい。携帯電話で大体の位置が分かる。また保護が何度も続く方は行政に対応をお願いしたい。特に初めて把握した方は積極的にケアしてほしい。
中 会 長	行方不明が発生したら先に警察に電話をするということがよく分かるフロー図の作成が必要。
委 員	認知症は皆が明日なるかもしれないという初歩的なところからの啓発をもっとしていく必要がある。私たちは人形劇をやっているが、子どもの理解力はすごいので、ごく普通にあることだから何も怖がらないでというところから始まっていけば理解が広がると思う。
委 員	名古屋市は、健康診断に認知症検査を組み込んでおり、MCIぐらいの状況のパーセンテージが意外にある。認知症である確率が高い方には、専門医の受診を勧めているがその受診率が悪いらしい。神戸市は、受診費用出しているから受診率が高い。大府市も早期発見のため検討してはどうか。
事 務 局	はい。
中 会 長	今回は行方不明者捜索のところがメインになってきたが、認知症カフェや行き場づくり、認知症サポーターの活用などもまた進めて、次回のときに報告を。 (事務局に進行を戻す)
事 務 局	本日いただいた意見を参考にして、認知症に不安のないまちづくりを進めていく。今後とも協力をお願いします。